

病理組織検査をご依頼の際は、検査材料をホルマリン固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライド、凍結組織などをご提出ください。

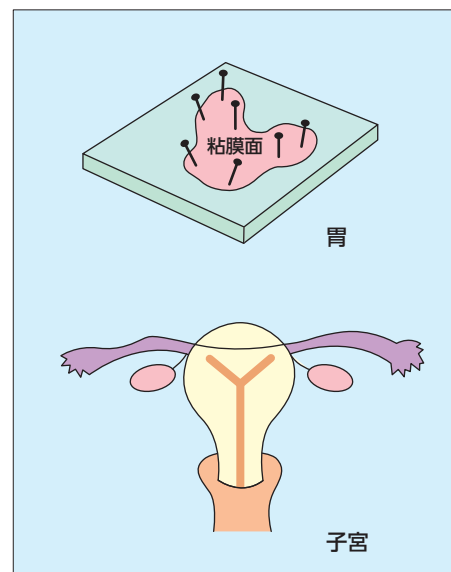
【ホルマリン固定組織】

遺伝子検査にも用いる場合は、10%中性緩衝ホルマリン液が推奨されます。

- 1) 検体は採取後、自家融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定してください。
- 2) 検体の固定には十分量のホルマリン液をご使用ください（組織の10～20倍量を目安としてください）。
- 3) 複数個の内視鏡下生検材料などをご提出の際は、採取組織ごとに個々の容器に入れ、必要事項を記入しご提出ください。
なお、微細組織の場合は、濾紙に貼り付けた上、個々の容器にお入れください。
- 4) 手術材料などの大きい組織をご提出の際は、下表の点に注意し、固定液が十分に浸透するように固定してください。

病理組織固定（ホルマリン固定）法

組 織	固 定 法
胃・腸管・胆嚢 など	臓器を切開後、粘膜面を上にし、板に広げ、虫ピンで止めてホルマリン液に入れます。
肺	気管支断端からホルマリンを注入し、断面にガーゼを挟み、表面にも厚めのガーゼを掛け、ホルマリン液に入れます。
子宮	前面よりY字型に切開してホルマリン液に入れます。
厚みのある臓器	あらかじめ割を入れてからホルマリン液に入れます。
廓清リンパ節	部位番号あるいは部位名を明記し、別々の容器で固定後、ご提出ください。



【未染標本スライド】

- 1) 患者名、検査番号などを明記し、切片が傷つかないようにしてご提出ください。
- 2) 染色時の剥離が十分考えられますので、数枚余分にご提出ください。
- 3) スライドガラスは、剥離防止コートスライドガラスのものを使用し、37℃にて一晩乾燥後、パラフィンを融解せずにご提出ください。
酵素抗体法染色用には“陰性対照”が必要ですので、依頼項目枚数+陰性対照用1枚+予備切片をご用意ください。
※判定までご要望の場合、HE染色用の未染色標本1枚もご準備ください。

注1：ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

注2：切片の厚さ、伸展条件、保存状態などにより検査不能となる場合があります。

【パラフィンブロック】

患者名、検査番号などを明記し、ご提出ください。

注：ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

【凍結組織】

1) 組織の切り出し

切除された組織の必要部分を1cm角以内の大きさにトリミングします。

2) 組織の包埋

専用包埋皿（クリオモールドなど）に凍結用包埋剤を入れ、組織を包埋皿の底に沈めます。

腎生検は、底に水平になるように沈め、皮膚その他の組織は、標本にしたい面を下にして、底に対し水平に下まで沈めてください。

3) 組織の凍結

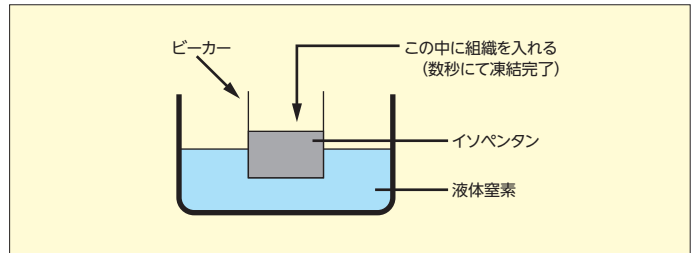
「液体窒素・イソペンタン」または「ドライアイス・アセトン・ヘキサン」による急速凍結を行ってください（右図）。

4) 組織の保存・提出方法

凍結の完了した組織は、アルミホイルにて包み、密栓のできる容器に入れ、深冷凍状態に保持してください（ -70°C ）。

長期保存では凍結乾燥および氷結晶出現をみる場合がありますので、速やかにご提出ください。

a. 液体窒素による方法



b. ドライアイス・アセトンによる方法

